

海産魚類に関する魚病診断

松坂 洋

1. 目 的

海産魚類の異常並びにへい死発生時に、その原因を迅速かつ的確に診断し、魚病の適切な治療及び防疫対策を行う。

2. 材料及び方法

増養殖業者等からの異常魚やへい死魚の検査依頼による検体及び巡回指導時の検体について、ウイルス性疾病・細菌性疾病・真菌性疾病・寄生虫性疾病等について診断を行った。

診断はすべて外観症状、解剖所見及び顕微鏡観察による病原体の有無について検査した。

一方、ウィルス性疾病については、魚類株化細胞CHSE - 214を用い常法による細胞変性の有無により診断、細菌性疾病は寒天培地（0.25%NaCl加普通寒天、0.25%NaCl加トリプトソーヤ寒天、0.25%NaCl加ブレインハートインフュージョン寒天及び海水サイトファーガ寒天）による細菌の分離並びに分離菌の抗血清による凝集反応によって判定した。

また、3海域（日本海、津軽海峡、太平洋）の天然ヒラメの貧血症の発生状況について調査した。

3. 結 果

(1) 海産魚類の魚病診断結果について

表1に魚種別疾病別の相談及び診断件数を示した。

魚病の相談及び診断件数は合計4件で、昨年度に比べ件数が著しく減少した。

発生魚種は、海産魚類ではクロソイ、ホシガレイ、マコガレイの増養殖魚種で各1件、それに天然魚のヒラメの魚病相談が1件あった。

魚病診断4件のうち、疾病別ではウィルス性疾病のリンホシスチス病の相談がヒラメ天然魚であった。それ以外の3件は細菌性疾病の滑走細菌症とそのビブリオ病との合併症であった。

表 1. 魚種別疾病別相談及び診断結果

魚 種 疾病名	海 面				合 計
	ヒ ラ メ	クロソイ	ホシガレイ	マコガレイ	
リンホシスチス病	1				1
滑 走 細 菌 症		1	1		2
滑走細菌及びビブリオ病				1	1
合 計	1	1	1	1	4

(2) ヒラメの貧血症について

日本海（大戸瀬地先）、津軽海峡（関根浜地先）及び太平洋（三沢地先）の3海域のヒラメ天然魚の貧血症検査を平成11年11月11～22日にかけて行った結果、ヒラメ貧血症の出現割合は日本海、津軽海峡、太平洋の順で多く、日本海の大戸瀬地先のヒラメは著しい貧血症状（体や鰓の退色及びヘマトクリット値の低下や赤血球の異常）を示す個体が多く、ほとんどの個体で貧血症の原因と疑われているネオヘテロボツリウム（*Neoheterobothrium hirame*）の寄生が確認された。逆に太平洋の三沢地先のヒラメではネオヘテロボツリウムの寄生した個体が1尾見られただけでそれ以外の症状は認められなかった。

3. 考 察

本県においては今のところ問題となるようなウィルス性疾病が確認されていないが、最近は飼育環境下並びに自然界においてヒラメの貧血症や対策の難しいウィルス性疾病の発生が全国で確認されている。

ヒラメ貧血症は今年度の本県海域での天然ヒラメの調査から、日本海が最もひどい状況にあるが、津軽海峡でも確認されており、全県的に広まっていく可能性があることから今後もその発生動向の調査を継続していく必要がある。

また、問題となる魚病が飼育施設内で発生しないように、今後も関係機関と連携を取りながら、病原体検査を含めた魚病検査並びに診断により魚病対策をしていくとともに、種苗生産機関及び中間育成機関では消毒等の魚病を発生させない防疫対策を日頃から進めていく必要がある。